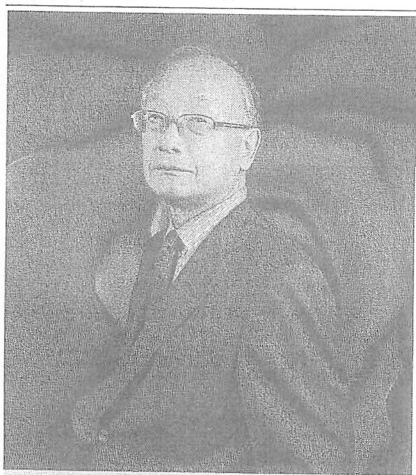
船の専門家目指す人の針路に

「船の基本」を出版した池田良穂さんに聞く

「船舶関連の仕事に携わることになった人の針路を照らす灯台のような役割が果たせれば」「日本の海運と造船は、世界のトップランナーとして常に進化を続けている」——。本紙のコラム「舷灯」の執筆者で、船舶工学の第一人者である池田良穂さんがこのたび、海文堂出版から「船の基本」を出版した。「船の専門家を目指す人たちへの入門書を書きたかった」という池田さんに、本書に込めた思いを聞いた。



池田　良穂（いけだ・よしほ）

1950年北海道生まれ、港町、室蘭育ち。1973年大阪府立大学工学部船舶工学科卒業。1979年同大学大学院博士後期課程を修了し工学博士。同大学助手、講師、助教授、教授、工学研究科長を経て、2015年に定年退職、同大学名誉教授。大阪公立大学客員教授。専門は船舶工学・海洋工学・クルーズ客船等。多数の学術論文、船舶に関する書籍を出版している。

「船の知識」を意識し執筆

——このテーマの本を出版したきっかけを教えてください。

「大学で船舶・海洋工学の教鞭をとっていましたが、40年前の造船不況以来、不人気学科になっていて、常々、船の魅力を若い人に伝えることが必要と思っており、科学啓蒙書であるブルーバックス（講談社）、サイエンス・アイ新書（SBクリエイティブ）、ナツメ社の図解シリーズ等で船の本を出版してきました」

「ふり返ってみれば著者自身が船舶工学の道を選んだきっかけになったのは、学生時代に出会った一冊の本、上野喜一郎著の『船の知識』でした。このような啓蒙書よりも一歩進んだ、船の専門家を目指す人たちの入門書を書きたいと思っていました」

——現在は、脱炭素化へ向けて、最新技術の船が続々と開発されています。それも踏まえ、本書を執筆されるに当たり、苦労されたことはありますか。

「基本的には、『船の知識』の目次に沿って書き始めましたが、さすがに50年前の本ですので、内容は大幅に改める必要があり、結局、すべての項目を、一から書き下ろすことになりました。船の基本的な原理は不変ですが、常に進化をしています」

船の原理から最新技術まで

「例えば、省エネという視点で見ると、1970年代のオイルショックの影響で燃料消費は半減しましたが、2000年代からの地球環境保全というニーズによって、さらに燃料消費は半減しています。さらにCO_2の排出削減から、各種の新燃料の導入も始まっています。新しい技術開発も進み、自動運航船の開発も活発に行われています。こうした最新技術についても紹介しています」

船を一生かける仕事に

——「スペシャリストを目指す人のための入門書」とありますが。

「副題に『スペシャリストを目指す人のための入門書』と付けましたが、先に述べたように、この本では一般の啓蒙書から一歩先の専門的な船舶工学の入門書を目指しました。大学や高等専門学校等で船舶工学を学び始める人、そして造船所、海運会社、港湾などで船舶関連の仕事に携わることになった人のための専門家を目指すための針路を照らす灯台のような役割が果たせればと思い、この副題をつけました」

「船舶・海洋系の大学でも、卒業生で造船会社に就職する人は20％程度にまで落ち込んでいます。造船会社は、船舶の専門教育を受けた人が欲しくても採れないという状況が長く続いています。これは造船会社と大学との連携がリクルートを除いて薄くなり、学生に造船や海運の魅力を伝える機会が少なくなったことも一因になっているように思います」

「現在、母校で企業と大学の共同研究のコーディネーターをさせていただいていますが、船舶関連の共同研究に携わった学生は目を輝かせて研究に打ち込んでいます。こうした学生が一生をかける仕事にしたいという気持ちが湧き出る業界であって欲しいと思います」

——本書を手にとった読者に感じてほしいものがあれば。

「海に囲まれた日本ですが、意外に日本人の目は海を向いていないように思います。輸出入貨物の99・6％も船に頼っているのですが、これも広くは知られていません。理由の一つは、船が大型化して、港が沖合に展開されてしまい、市民が港を訪れて船を見る機会が減ったことにあるように思います」

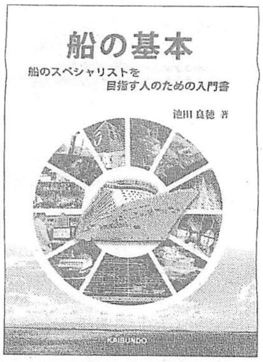
進化し続ける海運・造船業

「かつては大洋を渡って海外へ行く定期客船は、夢と憧れをもって見られていましたが、これも市民の目の前からは消えてしまいました」

「しかし、今でも大型の貨物船によって、日本人が生きていくための食糧やエネルギー資源が運ばれてきます。そして、それを各種の資源を輸入して、加工して付加価値をつけて船で輸出することで日本の経済は回っています」

「日本の海運と造船は明治時代になってから成長した産業ですが、今でも世界のトップランナーとして常に進化を続けています。新しい時代を担う若い方々にも、船の大事さと魅力を知っていただきたいと思っています」

「船の基本―船のスペシャリストを目指す人のための入門書」



船舶工学の第一人者である著者が送る「船の専門家を目指す人のための入門書」の決定版。第1章「船とは」から始め、船の分類、用途、材料、構造、設備、建造、法規、メンテナンスと修繕、速力など、全14章にて、わかりやすく解説。第9章の「船の建造」では日本の造船の歴史から船ができるまでの過程、現在の造船業界の変遷までを記述。現在の造船・海運界に対し問題提言もしている。イラストや写真を豊富に掲載し、最新鋭の船舶技術も紹介。入門書であるとともに、船の事典でもある一冊。

▽発行・海文堂出版▽定価・3520円（税込）

デザインから発送までの
総合印刷企業
ASAGAMI
アサガミプレスセンター株式会社
〒135-0043 東京都江東区塩浜2-4-20
TEL 03(5690)1113　FAX 03(5690)3800

謹賀新年　令和6年元日

船主団体　一洋会
会長　宮崎昇一郎
〒六五〇—〇〇二四
神戸市中央区海岸通8番（神港ビルヂング609号）
電話（〇七八）五一五—六二六七
FAX（〇七八）五一五—六四八三

一般財団法人　運輸振興協会
会長　安富正文
副会長　春田謙
〒一〇二—〇〇八三
東京都千代田区麹町四—五（海事センタービル）
電話（〇三）三二二一—八四三一
FAX（〇三）三二二一—八四三三
URL https://www.transport-pf.or.jp

海技教育支援・奨学金・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等
公益財団法人　海技教育財団
会長　池田潤一郎
〒一〇二—〇〇九三
東京都千代田区平河町二—六—四
電話　〇三—三二八八—〇九九一
https://mact.jp

・海技資格更新講習の講師養成及び教材作成事業
・海技資格更新及び制度の普及のための周知事業
公益財団法人　海技資格協力センター
会長　福内直之
〒一〇二—〇〇八三
東京都千代田区麹町四—五海事センタービル
電話（〇三）三二三八—九三〇一
FAX（〇三）三二三八—九三〇二

一般財団法人　海技振興センター
会長　村上英三
〒一〇二—〇〇八三
東京都千代田区麹町四—五（海事センタービル）
電話（〇三）三二六四—三八七一
FAX（〇三）三二六四—三八〇八
E-mail：soumu@mhrij.or.jp
URL：http://www.mhrij.or.jp

指定海上防災機関（海上保安庁長官指定）
一般財団法人　海上災害防止センター
理事長　白石昌己
〒二三一—〇〇〇一
横浜市中区太田町二丁目二三番地横浜メディア・ビジネスセンター七階
電話（〇四五）二二四—四三一一（代）

公益財団法人　海上保安協会
会長　石川裕己
理事長　奥島高弘
〒一〇四—〇〇三三
東京都中央区新川一—二六—九　新川イワデビル七階
電話（〇三）三一九七—七五八〇
FAX（〇三）三一九七—七五九〇
https://www.jcgf.or.jp
（協会X）